



左/コゴメウツギ 右上/エサキモンキツノカメムシ 右下/ミスジマイマイ

花の色 森の色

四季をめぐる彩り

木々は芽吹き足元には可憐な草本の花たち。パステルカラーに彩られる春。で、終わらせないのが日本人の繊細な色彩感覚。四季が巡り、様々な自然環境の中多種多様な生きものが息づく日本列島。四季折々に違う表情が見られます。食すものから周りにあるものすべてに着想を得て生まれ、伝えられてきた日本の伝統色。定義や分類にもよりますがその数は数百から千を越えると言われます。

春の代名詞のような桜、桜と言えはかつては山桜のことを言いました。薄くほのかに色づいた紅色を桜色。最も光に近い淡い紅です。桜色に灰色が混ざったような鼠色の落ち着いた雰囲気でありながら、霞に紛れる桜のような静かに華やぐ色合いを灰桜(はぐさくら)。

初夏を告げるのはウツギ。卵の花と親しまれてきましたがその花のように白く、ほのかに

黄色っぽい色合いを卵の花色と言います。淡い青紫色の花を咲かせるセンダン。古名は棟(おうち)で邪気を払うと考えられていたこの花の色を棟色。

そして梅雨となり降る雨により深く生い茂る木々の葉は緑を深めます。この黒々とした緑色で少し暗めの色合いを葉緑色と言います。葵色は梅雨に花を咲かせるタチアオイに由来する明るい紫色です。

平安時代の十二単はかさね色目で季節を表現しました。贅沢を禁じられた江戸時代には地味な茶色や鼠色に微妙な濃淡と色を掛け合わせ粋な色を生み出しました。

光があり生まれた色の数々。さあ今日はどんな色が見つかるでしょう。裏葉色、躑躅(つつじ)色、藤色、山吹色、菖蒲(あやめ)色、杜若(かきつばた)色、若苗色、苔色、紫陽花青、濡葉色：季節は初夏へ



ヤマツツジ
画 堅香子の会

センターからのお知らせ

館内改装工事が終わりました！

館内改装工事が終了しました。今後引越し作業を行い、順次、従来通りに展示室や講義室をご利用頂けるようになります。約4か月間、ご協力ありがとうございました。

「シダ手ぬぐい」が帰ってきます！

大好評で品切れが続いていた、「シダ手ぬぐい」が帰ってきます！さらに藍色のものもご用意しました。ぜひお買い求めください！



大人の自然学セミナー

がイベントに加わります。

講師をお招きして今までの観察会に、もう少し踏み込んだ解説をして頂く、大人向けの講座です。イベント年間カレンダーや当通信裏面をチェック！